

九州地域土壌インベントリ説明会

開催日：2006/9/28

開催地：熊本県菊池市 ID430275



急斜面での試料採取



多量のれきを含む土壌断面から試料採取



代表断面写真 BD(d)



代表断面の説明

記録

当初から希望の多かった九州地方で県を対象とした説明会を行った。九州県内の他、山口、愛媛、沖縄からも参加者が集まった。会場は熊本県にお願いし、比較的集合しやすい場所を選んだ。九州支所に集合後、菊池市で福岡と佐賀県と合流した。

調査地はスギ人工林であるが、広葉樹が混じる。斜面は 30～40 度の急傾斜地であり、足場もよくない。通常は一カ所に集まり調査地の選定や枯死木調査法をはじめに講習するのであるが、集団の講習はできない状態であったので、斜面の中腹から概要を説明後、すぐに東西南北の 4 地点に分かれて現地で講習も兼ねた実習となった。南の杭は沢沿いに位置するようだが現場で確認できず、新たな杭を設置した。なお、本プロットは急傾斜にもかかわらず初めから斜距離換算が

されておらず半径 17m 程度しかなかったが、その杭を基準に調査地を決めた。

現場では各グループ 5 名ほどに 1 名の講師がつき説明しながら、実際に試料を採取してもらった。4 カ所は場所による違いが大きく、れきの無い断面もあったが、沢沿いの地点はれきが多く、その隙間から土壌試料をとり、直方体試料を採取した。実際、れきの多い土壌を扱う場合も多く、参加者からの質問も多かった。れきが多く、土が少なくとも、なるべく土壌を採取し、正確にはとれなくとも、直方体試料を採取することにより土壌が少ないことを示す、というサンプリングの考え方を示した。

試料採取が終わったグループから個別に枯死木調査と代表断面の説明を行った。代表断面は斜面中腹で南西の地点に作成した。ここは斜面が急で表土は流亡しやすく A 層は薄い。下層土はマサ土で BC 層となっている。土壌型は適潤性褐色森林土と判定した。説明しながらの作業をすすめると時間が足りなく、最後はいつものようにせわしい講習となってしまった。代表断面の記載と土壌判定には経験が必要である。中国地方で行ったように、別途講習が必要かもしれない。また各地の土壌断面を調査する機会は森林総研といえども最近は少ないので、本事業を進める中で現地での講習も今後検討していきたい。

8:30 九州支所集合 出発

9:30 のきくち観光物産館にて福岡県、佐賀県と合流、移動

10:00 土壌炭素蓄積量調査の試験地設定等概要説明

10:30 4 グループに分かれ、土壌炭素および堆積有機物調査実習

12:30 グループごとに昼食

13:00 実習継続（堆積有機物と円筒採取）

15:00 グループごとに枯死木調査説明

16:00 グループごとに代表断面の説明
熊本県による代表断面試料採取

17:00 終了

17:30 菊池市物産館にて解散

参加者（敬称略）

福岡県 佐々木重行、檜崎康二

佐賀県 永守直樹、馬場信貴、真崎修一

長崎県 前田 一

熊本県 津々見英樹、草野、金坂光祐、田中裕次郎

鹿児島県 森田慎一、下園寿秋、住吉博和

宮崎県 小田三保、岩切

沖縄県 生沢 均

愛媛県 岡田恭一

山口県 山田隆信、笹井雅之

講師：森林総研 6 名 本所：高橋正通、森貞和仁、松浦陽次郎、釣田竜也

九州支所：大貫靖浩、今矢明宏